



平成23年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社エイティン

コード番号 3785 URL <http://www.8ing.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 藤澤 知徳

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長

(氏名) 津村 正幸

TEL 03-5753-8178

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年9月期第1四半期の連結業績(平成22年10月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年9月期第1四半期	382	△41.1	△12	—	△12	—	△17	—
22年9月期第1四半期	649	267.4	95	—	96	—	56	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
23年9月期第1四半期	△334.99	—
22年9月期第1四半期	1,052.28	1,047.78

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
23年9月期第1四半期	1,769	1,563	88.4	29,471.34
22年9月期	1,758	1,648	93.8	30,877.04

(参考) 自己資本 23年9月期第1四半期 1,563百万円 22年9月期 1,648百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
22年9月期	—	0.00	—	1,000.00	1,000.00
23年9月期	—	—	—	—	—
23年9月期(予想)	—	0.00	—	1,000.00	1,000.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年9月期の連結業績予想(平成22年10月1日～平成23年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
第2四半期(累計)	909	△15.0	△3	—	△3	—	△32	—	△595.14
通期	2,018	24.2	143	154.6	143	107.8	62	113.4	1,138.16

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P2「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無
新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）、
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有
（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
① 会計基準等の改正に伴う変更 有
② ①以外の変更 無
（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）
① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年9月期1Q 54,993株 22年9月期 54,993株
② 期末自己株式数 23年9月期1Q 1,933株 22年9月期 1,599株
③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年9月期1Q 53,266株 22年9月期1Q 53,294株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当社は、平成22年9月期第1四半期連結会計期間より、受注制作のソフトウェアに係る売上高及び売上原価の計上基準の変更をしております。これにより、平成22年9月期第1四半期連結会計期間の売上高及び売上原価が増加しております。詳細は、平成22年2月1日発表の「平成22年9月期第1四半期決算短信」4ページ 4. その他（3）四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更をご覧ください。
2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）2ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	1
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	1
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. その他の情報	2
(1) 重要な子会社の異動の概要	2
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	2
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	2
3. 四半期連結財務諸表	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書	4
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	5
(4) 継続企業の前提に関する注記	6
(5) セグメント情報	6
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(7) その他注記情報	8

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、企業収益は改善し、雇用情勢に持ち直しの動きがみられるものの、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にあります。景気の先行きについては海外景気の下ぶれ懸念や為替レート・株価の変動などにより下押しされるリスクが存在しております。

当社グループが属する家庭用ゲームソフト業界におきましては、消費意欲の低迷などの影響により海外市場を中心に低調に推移するなか、ゲームメーカー各社よりプレイヤーの動きを検知する新型周辺機器が発売されるなど、新しいエンターテインメントの登場による市場活性化が期待されております。また、SNSゲーム市場の成長、スマートフォンの普及などゲームプラットフォームが多様化し、市場の広がりが進んでおります。

このような環境の中、当社グループは分業化・ライブラリー化を推進し、開発体制強化に努めてまいりました。

当第1四半期におきましては、オンラインゲームコンテンツ市場が急速に拡大する中、オンラインゲームの開発・運営を主たる事業とする㈱エイティングネットワークスを設立したほか、新規の開発拠点である札幌スタジオを開発しました。

以上の結果、当第1四半期の当社グループの経営成績は、売上高は382,267千円（前年同四半期は売上高649,364千円）、営業損失は12,390千円（前年同四半期は営業利益95,814千円）、経常損失は12,257千円（前年同四半期は経常利益96,313千円）、四半期純損失は17,843千円（前年同四半期は四半期純利益56,080千円）となりました。

なお、当第1四半期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。これにより、新たに「ネットワークコンテンツ開発事業」を報告セグメントとしておりません。詳細は、「3. 四半期連結財務諸表 (5) セグメント情報 セグメント情報」をご覧ください。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① ゲームソフト開発事業

ゲームソフト開発事業におきましては、開発ツールの機能拡張等の開発効率化を推進するとともに、新設した札幌スタジオの稼働を開始するなど、開発体制の強化に努めてまいりました。

以上の結果、ゲームソフト開発事業における売上高は355,991千円（前年同四半期は売上高618,035千円）、営業利益は93,187千円（前年同四半期は営業利益195,392千円）となりました。

② モバイルコンテンツ開発事業

モバイルコンテンツ開発事業におきましては、既存コンテンツの更新等によるユーザー数の増加に努めてまいりました。しかしながらユーザーの嗜好の変化は著しく、厳しい状況が続き、前期比で減収、減益となりました。

以上の結果、モバイルコンテンツ開発事業における売上高は26,221千円（前年同四半期は売上高30,475千円）、営業損失は4,177千円（前年同四半期は営業利益4,742千円）となりました。

③ ネットワークコンテンツ開発事業

ネットワークコンテンツ開発事業におきましては、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）向けコンテンツの配信を開始いたしました。なお、当第1四半期連結会計期間においては配信開始直後であるため、営業費用8,475千円のみが計上されております。

④ その他事業

その他事業における売上高は54千円（前年同四半期は売上高853千円）、営業利益は39千円（前年同四半期は営業利益804千円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 財政状態の分析

資産

資産合計は、前期末に比べ10,815千円増加し、1,769,003千円となりました。主な増加要因は、コンテンツ制作に係るコンテンツ仮勘定の増加額56,624千円、開発用ソフトウェア等の取得に係る無形固定資産の増加額37,528千円であり、主な減少要因は、受取手形及び売掛金の減少額105,048千円であります。

負債

負債合計は、前期末に比べ95,714千円増加し、205,253千円となりました。主な増加要因は、支払手形及び買掛金の増加額40,454千円であります。

純資産

純資産合計は、前期末に比べ84,899千円減少し、1,563,749千円となりました。これは、配当金の支払い及び四半期純損失に係る利益剰余金の減少額71,237千円、自己株式の増加額13,661千円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期末に比べ5,892千円増加し、956,990千円となりました。

また、当第1四半期における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果取得した資金は、172,387千円（前年同四半期は34,373千円の支出）となりました。主な増加要因は、売上債権の減少額100,536千円、仕入債務の増加額40,454千円等であり、主な減少要因は、税金等調整前四半期純損失18,464千円、たな卸資産の増加額11,401千円等であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は、104,214千円（前年同四半期は15,244千円の支出）となりました。主な減少要因は、無形固定資産の取得による支出93,886千円等であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は、62,280千円（前年同四半期は62,211千円の支出）となりました。これは、配当金の支払額48,619千円、自己株式の取得による支出13,661千円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想は、「3. 平成23年9月期の連結業績予想（平成22年10月1日～平成23年9月30日）」に記載の業績数値となっており、平成22年11月9日に公表した連結業績予想から変更ありません。

(注) 業績予想の分析・検討内容は、本書提出日現在において当社の財務諸表及び経営環境に基づき判断したものであります。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業損失及び経常損失は128千円、税金等調整前四半期純損失は1,822千円それぞれ増加しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は4,328千円であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	956,990	951,098
受取手形及び売掛金	121,002	226,051
コンテンツ	44,731	—
仕掛品	30,497	21,974
コンテンツ仕掛品	—	41,852
繰延税金資産	2,487	1,315
その他	82,485	89,439
流動資産合計	1,238,195	1,331,732
固定資産		
有形固定資産	54,297	46,658
無形固定資産		
コンテンツ仮勘定	244,800	188,176
その他	118,426	80,898
無形固定資産合計	363,226	269,074
投資その他の資産	113,283	110,722
固定資産合計	530,808	426,455
資産合計	1,769,003	1,758,188
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	45,490	5,035
未払法人税等	4,811	6,178
前受金	8,127	10,532
引当金	4,357	—
その他	138,126	87,792
流動負債合計	200,913	109,539
固定負債		
資産除去債務	4,340	—
固定負債合計	4,340	—
負債合計	205,253	109,539
純資産の部		
株主資本		
資本金	207,313	207,313
資本剰余金	268,563	268,563
利益剰余金	1,210,586	1,281,824
自己株式	△122,713	△109,051
株主資本合計	1,563,749	1,648,649
純資産合計	1,563,749	1,648,649
負債純資産合計	1,769,003	1,758,188

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高	649,364	382,267
売上原価	395,102	248,063
売上総利益	254,262	134,204
販売費及び一般管理費	158,448	146,594
営業利益又は営業損失(△)	95,814	△12,390
営業外収益		
受取配当金	86	—
還付加算金	—	342
未払配当金除斥益	360	179
その他	52	45
営業外収益合計	499	566
営業外費用		
創立費償却	—	363
その他	—	71
営業外費用合計	—	434
経常利益又は経常損失(△)	96,313	△12,257
特別損失		
開発中止損失	—	4,512
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	1,694
特別損失合計	—	6,206
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	96,313	△18,464
法人税等	40,232	△620
四半期純利益又は四半期純損失(△)	56,080	△17,843

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	96,313	△18,464
減価償却費	5,465	10,625
賞与引当金の増減額(△は減少)	7,128	4,357
受取利息及び受取配当金	△86	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	1,694
開発中止損失	—	4,512
売上債権の増減額(△は増加)	△59,227	100,536
たな卸資産の増減額(△は増加)	150,397	△11,401
仕入債務の増減額(△は減少)	△8,074	40,454
前受金の増減額(△は減少)	△243,075	△2,404
未払金の増減額(△は減少)	5,342	5,756
未収消費税等の増減額(△は増加)	—	12,261
未払消費税等の増減額(△は減少)	22,056	7,768
その他	4,952	22,868
小計	△18,807	178,565
利息及び配当金の受取額	86	—
法人税等の支払額	△15,651	△6,178
営業活動によるキャッシュ・フロー	△34,373	172,387
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,069	△8,827
無形固定資産の取得による支出	△12,174	△93,886
敷金及び保証金の差入による支出	—	△1,499
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,244	△104,214
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	—	△13,661
配当金の支払額	△62,211	△48,619
財務活動によるキャッシュ・フロー	△62,211	△62,280
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△111,828	5,892
現金及び現金同等物の期首残高	1,411,115	951,098
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,299,286	956,990

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

ゲームソフト開発事業の売上高及び営業利益の金額は、全セグメントの売上高の合計及び営業利益の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会及び経営会議が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に製品・サービス別の事業部を置き、各事業部は、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「ゲームソフト開発事業」及び「モバイルコンテンツ開発事業」並びに「ネットワークコンテンツ開発事業」の3つを報告セグメントとしております。

「ゲームソフト開発事業」は、家庭用ゲームソフト及びアミューズメント施設向けゲームソフトの企画・開発をしております。「モバイルコンテンツ開発事業」は、携帯電話向けデジタルコンテンツの企画・開発・配信をしております。「ネットワークコンテンツ開発事業」は、オンラインコンテンツの企画・開発・運営をしております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自平成22年10月1日 至平成22年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	ゲームソフト 開発事業	モバイル コンテンツ 開発事業	ネットワーク コンテンツ 開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	355,991	26,221	—	382,212	54	382,267
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	355,991	26,221	—	382,212	54	382,267
セグメント利益又は損失（△）	93,187	△4,177	△8,475	80,534	39	80,573

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルキャラクターの企画製作及び特許開発等を含んでおります。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	80,534
「その他」の区分の利益	39
全社費用（注）	△92,963
四半期連結損益計算書の営業損失（△）	△12,390

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

（追加情報）

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、当第1四半期において、平成22年11月15日開催の取締役会決議に基づき、自己株式334株を取得いたしました。この結果、当第1四半期末において、自己株式が13,661千円増加し、122,713千円となっております。

(7) その他注記情報

該当事項はありません。